

第3章 分野別取り組み状況と課題

1 身体活動・運動

《目標》

日常生活の中で体を動かす習慣を身につけ、
楽しみながら運動を継続できる環境・機会づくり

1) 日常生活の中で体を動かす工夫や運動の効果・必要性の普及・啓発

スポーツ事業・講演会の開催については、375回 3,397人と増加してきており、これは、ふれ・スポ・とうべつでプログラムの見直しを行ったことや、継続して取り組みたいという方が増加したことが大きな要因であると考えられます。

健康福祉出前講座や体力測定については、回数・参加者数ともに増加に転じていないため、さらに、ふれ・スポ・とうべつや教育委員会などと連携を強化し、具体的な方法について検討します。

区分	平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度	
スポーツ事業・講演会の開催	152 回	1,531 人	167 回	1,918 人	190 回	2,202 人	375 回	3,397 人
健康福祉出前講座 (あへあほ体操等)	24 回	926 人	19 回	1080 人	11 回	650 人	15 回	343 人
体力測定	4 回	80 人	5 回	246 人	5 回	154 人	5 回	119 人

2) 楽しみながら運動を継続できる環境・機会をつくる

体育館利用者数及びフィットネスカレッジの実施回数は増加し、運動を継続する機会が充実してきています。

特定健康診査を受診した方などに対し、メタボリックシンドロームの改善等を目的として実施している運動サポート事業については、実施回数・参加者数はやや減少していますが、対象者や時間帯を見直し、内臓脂肪型肥満の解消などに効果がある方法を検討し、取り組んでいます。

介護予防体操普及啓発事業では、北海道医療大学リハビリテーション科学部と共同で考案した「シャッキリ体操」を、ふれあいスポーツ大会や各地域会館で実施する高齢者クラブで

継続的に取り組み普及しています。

区分		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
体育館利用者数(延べ)		58,908 人	62,362 人	70,557 人	81,753 人
フィットネス スカレッジ	回数	20 回	20 回	20 回	50 回
	参加者延数	548 人	616 人	551 人	495 人
運動サポート事業		14 回 178 人	11 回 173 人	11 回 179 人	10 回 153 人
介護予防体操普及啓発 事業		-	-	8 回 657 人	8 回 574 人

ヒアリングからは、運動に関する事業や講演会の開催をさらに住民へ周知していく必要があるとの意見が出されています。

日常生活で最も取り組みやすい運動はウォーキングであるとの声が多く聞かれ、気軽にウォーキングができる環境の整備として、すこやかロード認定事業(※5)の活用の検討や住民同士がお互いに声を掛け合い運動に取り組んでいけるような働きかけを行っていく必要があります。

(※5) すこやかロード認定事業…自らの健康運動を推進するための環境整備の一つとして、身近で気軽に楽しくウォーキングを行うためのコースを認定し、広く北海道内に周知を行う北海道健康づくり財団で行う補助事業です。

2 栄養・食生活

《目標》

健康を維持することのできる食生活のコツを身につける

1) 1日3食食べる習慣をつける

妊娠期では、健康的な食習慣を身につける機会として、希望者および食事の見直しが必要な方に対し、食事診断を実施しています。

乳幼児期は、乳幼児健診での乳幼児栄養相談や離乳食教室、幼児食育事業などを通して栄養バランスのとれた食事について学ぶ機会を設けています。

学童期は栄養教諭により小中学校食育事業を実施し、事業の中では健康的な食習慣を身につけるため1日3食食べることの大切さを伝えています。

区 分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
乳幼児栄養相談	19 回	20 回	20 回	20 回
	131 人	89 人	157 人	154 人
離乳食教室	5 回	5 回	7 回	6 回
	102 人	125 人	194 人	26 人
幼児食育事業	3 回	6 回	3 回	3 回
	65 人	147 人	78 人	92 人
町内小中学校食育事業	52 回	45 回	27 回	33 回
	49 学級	42 学級	54 学級	38 学級

2) 自分の適正体重を知り、適正体重に近づける

健康福祉出前講座では、講話だけではなく、調理実習や適正体重の計算等の演習を取り入れながら肥満予防について学ぶ機会を設けています。

特定健診結果説明会では、生活習慣病予防を重視し、適正体重の維持に向けて個別の状況に応じた支援を行っています。

当別町食生活改善協議会が中心となり、料理講習会では、バランスのとれたメニューの普及や1日コックさんでのヘルシーメニューの提供を実施しています。

区 分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
健康福祉出前講座	8 回	10 回	6 回	13 回
(いきいき健康食生活)	172 人	193 人	89 人	297 人
特定健診結果説明会	36 回	34 回	34 回	38 回
	308 人	269 人	278 人	317 人
料理講習会	14 回	13 回	14 回	12 回
	141 人	161 人	214 人	91 人
1日コックさんでのヘルシ	1 回	0 回	0 回	4 回
ーメニュー提供	40 人	0 人	0 人	171 人

3) あと1品、野菜料理を食べる

当別町食生活改善協議会が中心となり、レシピの設置やイベント等で野菜料理の試食提供を行い、野菜を上手に摂取できる工夫や方法を伝えています。平成 28 年度は当別町食生活改善協議会と町が「当別産野菜たっぷりレシピ集」を作成し、乳幼児健診、料理講習会、特定健診結果説明会などで配布し、健康的な食生活の普及や野菜摂取量の増加に努めています。

区 分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
レシピの設置	4 カ所	3 カ所	3 カ所	3 カ所
	2,400 枚	180 枚	180 枚	180 枚
各種イベントでの試食	3 回	1 回	1 回	1 回
(食改事業)	620 人	120 人	120 人	100 人

ヒアリングからは、1日5皿(1日350g)の野菜摂取目標量について知っている者が少ない現状にあることがわかりました。また、野菜を食べる必要性が総合的に理解できないと行動に移すことは難しいとの意見も聞かれています。

1日に必要な野菜量と食べることの必要性を今一度周知し、食生活にプラス1皿の野菜を追加してもらえるよう、簡単な野菜料理の普及を実施していく必要があります。

3 こころの健康

《目標》

自分自身や家族、友人の心身の変化に気づき、相談できる環境づくり

1) 趣味や生きがい、交流の場の提供や情報の発信

ボランティア登録人数は年々増加しています。当別町社会福祉協議会、社会福祉法人ゆうゆう等によりボランティア活動、サロン活動支援が行われており、人との交流が図られ情報共有の機会となっています。

今後も、新たなボランティアの担い手の発掘や交流の場や居場所づくり、サロン活動支援を行います。また、出かける場や人との交流の場として過ごせる場の情報の発信を行います。

区 分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
ボランティア登録人数	1,584 人	1,610 人	1,714 人	1,740 人

2) こころの健康やうつ病に関する正しい知識の普及

健康福祉出前講座や健康づくりセミナー等でこころの健康やうつ病についての正しい知識の普及を実施しています。健康福祉出前講座については、町内会や高齢者クラブなど広く普及ができたため平成 27 年度からこころの健康に関するテーマは休止しています。

今後は、健康福祉出前講座や健康づくりセミナー等で、こころの健康や子どもや若年の自殺対策などをテーマに町民に知識の普及を行います。また、学校や教育委員会、保健所等と連携支援体制を構築し、子どもやその保護者を含めた自殺対策への取り組みについて推進していきます。

区 分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
健康福祉出前講座	9 回	4 回	0 回	0 回
(早く気づいて！こころの病気)	237 人	99 人	0 人	0 人
こころの健康づくりセミナー	2 回	1 回	0 回	1 回
	70 人	51 人	0 人	91 人

3) こころの相談先の普及

こころの健康相談数は、年度により増減しています。相談内容は、こころの健康相談と合わせて生活・就労など様々な問題を抱えている方が多く、関係機関と連携した支援を行っています。また、こころの健康を保つため早期に相談や治療につながるよう、町内外の相談先の一覧表を作成、窓口やセミナー等での配布及び当別町ホームページに掲載を行っています。

区 分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
こころの健康相談実施数	597 人	355 人	275 人	312 人
当別町障がい者総合相談 支援センター	424 人	182 人	104 人	175 人
江別保健所	45 人	111 人	88 人	59 人
健康推進係	128 人	62 人	83 人	78 人
相談先の周知	3,000 部	3,000 部	1,000 部	1,000 部

今後も、早期に相談することの大切さや相談先の普及を推進します。また、自殺のハイリスク者や自殺者の実態や問題点を把握し、連携した支援ができるよう、関係機関（相談機関や消防署、警察など）を含めた自殺対策連絡会を定期的を開催します。

4 歯・口の健康

《目標》

正しい歯みがき習慣と定期的な歯科健診で

歯と口の健康づくりから生き生きとした生活を！

1) 正しい歯みがき習慣の実践

むし歯のない幼児の割合は緩やかに上昇しています。乳幼児への保護者に向けて、平成 27 年度より歯科保健をテーマにした「子育て講座」から「歯科健康講話」に変更し、10 ヶ月児と保護者の全員を対象に歯科衛生士による正しい歯みがき習慣についての講話とブラッシング指導を行っています。

3 歳児健診でむし歯のない 3 歳児とその保護者を、「親と子の良い歯のコンクール」へ推薦を行い、セルフケアの意識を高める取り組みを行っています。

区 分		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
むし歯のない幼児の割合	1歳6ヵ月児	59 人	56 人	65 人	52 人
		95.2 %	86.2 %	97.0 %	100.0 %
	3歳児	45 人	53 人	56 人	48 人
		78.9 %	71.6 %	84.8 %	81.4 %
歯科健康講話(子育て講座)		2 回	2 回	10 回	10 回
		32 人	36 人	63 人	59 人
親と子の良い歯のコンクールへの推薦		3 組	2 組	1 組	2 組

2) 定期的な歯科健診の受診

1歳6ヵ月児、3歳児及び、就学前の歯科健診・フッ素塗布等定期的な歯科健診体制が確保されています。

平成22年度、保育所・幼稚園から開始したフッ化物洗口は、毎年対象学年を増やし、平成28年度で中学校1年生まで実施しています。

成人期、高齢期の歯科健診は未実施の状況です。

区 分		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
歯科健診	1歳6ヵ月児	62人	65人	67人	52人
		93.9%	98.5%	100.0%	96.3%
	3歳児	59人	74人	66人	59人
		92.2%	98.7%	100.0%	96.7%
歯科健診・フッ素塗布		6回	6回	6回	6回
		193人	170人	235人	228人
フッ化物洗口	保育所・子ども園	40～49回	41～49回	44～48回	49回
		181人	186人	156人	134人
	小学校	38回	33～38回	23～29回	31～36回
		479人	565人	658人	619人
		1～4年生	1～5年生	1～6年生	1～6年生
	中学校	-	-	-	31～33回
		-	-	-	105人
		-	-	-	1年生

ヒアリングからは、歯科医師からは重症化してから受診する患者が依然多いため、痛くない治療であることや、予防の大切さ、むし歯の全身への影響、歯みがきの技術など、歯・口の健康に関する継続した啓発が必要であるとの意見があります。今後、成人、高齢者を対象とし歯や口の健康に対する意識を高め、正しい歯みがき習慣と定期的な歯科健診を受けることができる体制や環境づくりを北海道医療大学等の協力のもと進めます。

5 生活習慣病(糖尿病・循環器疾患・がん)

《目標》

健診結果から生活習慣を振り返り、よりよい生活習慣を身につける

1) 定期的な健康診査及びがん検診の受診率向上

当別町国民健康保険加入者を対象とした、特定健康診査の受診率は 50%以上を維持しています。

生活習慣病発症予防・重症化予防のために、新規健診対象者や、無医療者、昨年度未受診者等に保健師・管理栄養士が電話、訪問等で受診勧奨を行っています。

健康福祉出前講座で、健診の受診勧奨とともに当別町の健康実態を伝え、生活習慣病予防についての講話を実施しています。

区 分		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
特定健康診査	対象者	3,530人	3,424人	3,394人	3,248人
	受診者	1,818人	1,739人	1,840人	1,681人
	受診率	51.5%	50.8%	54.2%	51.8%
電話・訪問等勧奨		1,065人	969人	956人	1,046人
健康福祉出前講座		3回	8回	6回	11回
(わが町の健康実態)		82人	189人	136人	282人

がん検診の受診数は国民健康保険加入者の人間ドック受診数について実績に含むこととしたため、胃、肺、大腸がん検診の受診者数が増加していますが、子宮、乳がん検診受診数は減少しています。受診率については、平成 28 年度から対象者の考え方が変更となり、対象者数が増えたため、すべてにおいて受診率が低下しています。

がん検診が受けやすい体制づくりとして、がん検診実施日の増加、特定健康診査や、様々ながん検診と同日に受診できる日程の調整など、健診体制の整備を行っています。具体的には、平成 26 年度から子宮頸がん検診の委託病院を1機関増やしています。また、平成 29 年度からは、特定健康診査と 5 つのがん検診が町内で受けられる、とうべつ総合健診を開始する等、町民が受けやすい健診実施体制としています。

また、子宮・乳がん検診の無料クーポン券を初めて健診対象の年齢に達した方へ個別発送しています。また、40、45、50、55、60 歳の方を対象に個別発送等に受診勧奨を行い、がんの早期発見・治療につながるよう努めています。

区 分		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
がん検診の 受診率	胃	対象者数	6,903人	6,601人	7,038人	12,158人
		受診者数	928人	876人	870人	1,236人
		受診率	13.4%	13.3%	12.4%	10.2%
	肺	対象者数	6,797人	6,503人	6,826人	11,483人
		受診者数	1,045人	1,026人	1,029人	1,410人
		受診率	15.4%	15.8%	15.1%	12.3%
	大腸	対象者数	6,797人	6,503人	6,826人	11,483人
		受診者数	1,225人	1,204人	1,223人	1,464人
		受診率	19.0%	18.5%	17.9%	12.7%
	子宮	対象者数	4,700人	4,603人	4,958人	7,403人
		受診者数	431人	425人	388人	326人
		受診率	18.1%	18.6%	16.4%	9.6%
	乳	対象者数	4,255人	4,025人	4,498人	6,094人
		受診者数	485人	494人	431人	357人
		受診率	22.3%	24.3%	20.6%	12.9%

社会保険加入者は、職場健診等でがん検診を受診していることが推測され、町で把握している検診受診率より、実際の受診率は高いことが推測されますが、実態については把握できていないため、今後対象者を整理していく必要があります。一方で当別町国民健康保険加入の対象者については町で実態の把握が可能なため、優先的に受診勧奨を行い、受診率向上への対策を強化していく必要があります。

今後さらに、特定健診・がん検診の受診率を向上させていくには、対象者のニーズに合った健診日の整備、電話や訪問等による個別受診勧奨のほか、商工会や町内企業など職域と連携した取り組みや、健診や健康づくりへの関心が薄い、いわゆる『無関心層』への健診受診や健康づくりを推進していく取り組みが必要です。

2) 健康診査結果を生かした生活習慣病の発症予防

特定保健指導の実施率は年々増えています。指導内容としては、健診結果から生活習慣を振り返り、行動変容につながるよう、健診結果説明会や家庭訪問等を行っています。

健診結果をみるとメタボリックシンドロームの男性、メタボリックシンドローム予備群の女性、高血圧、脂質異常症、血糖コントロール不良者が平成28年度は増えていますが、単年度の結果だけでは評価できないため、今後複数年の結果で評価していく必要があります。

成人の喫煙率は20%前後と横ばいで、依然として高い現状にあります。町の喫煙の実態把握を行い、禁煙対策を推進していく必要があります。

区 分		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
特定保健指導		106 人	118 人	124 人	116 人
		54.4 %	58.1 %	61.1 %	63.4 %
メタボリックシンドローム の人の割合	男性	211 人	174 人	190 人	208 人
		27.2 %	23.1 %	24.1 %	27.9 %
	女性	133 人	100 人	126 人	107 人
		12.8 %	10.1 %	12.0 %	11.4 %
メタボリックシンドローム 予備群の人の割合	男性	126 人	145 人	153 人	124 人
		16.2 %	19.3 %	19.4 %	16.6 %
	女性	53 人	49 人	59 人	60 人
		5.1 %	5.0 %	5.6 %	6.4 %
高血圧の割合 (Ⅱ度以上の割合)		76 人	59 人	52 人	71 人
		4.1 %	3.4 %	2.9 %	4.2 %
脂質異常症の割合 (LDL160mg/dl以上の 割合)	男性	70 人	68 人	59 人	73 人
		9.0 %	9.0 %	7.5 %	9.8 %
	女性	110 人	94 人	100 人	103 人
		10.6 %	9.5 %	9.5 %	11.0 %
血糖コントロール不良者の割合 (HbA1c8.4%以上の割合)		18 人	18 人	17 人	25 人
		1.0 %	1.0 %	0.9 %	1.5 %
喫煙率	妊婦	10.4 %	3.6 %	7.6 %	8.1 %
	成人	21.1 %	20.0 %	19.8 %	20.9 %

6 感染症等に対する対策

《目標》

感染症の正しい知識の普及を図り、感染症予防・発生時の感染拡大予防に努める

1) 感染症等についての正しい知識の普及啓発を図る

教育委員会や中学校と連携し、中学 3 年生に対してがん予防及び感染症に関するテーマで講話を実施しています。また、平成 27 年度からは新たに当別高校生に性感染症に関するテーマの講話を実施しています。

O157 予防看板を、ゆとろと西当別コミュニティーセンターへ設置し、食中毒予防のポイントを周知しています。また、広報やホームページへ季節に合わせ、感染症とその予防法について掲載をしています。

区分	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
中学生への講話 (こころもからだも元気が いっしょ！みんなであつ ろう健康とうべつ)	3 回 228 人	2 回 84 人	3 回 218 人	1 回 76 人
高校生への講話 (性は生を考えること～今 の自分を大切に～)	-	-	1 回	1 回 166 人
O157 予防看板設置	2 か所	2 か所	2 か所	2 か所

2) 感染症予防対策及び関係機関との連携

乳幼児期の予防接種接種率はほぼ 100%であり、早期に接種できています。新生児訪問や各種健診の際にはスケジュール管理について指導しています。学童期の予防接種接種率は 80%程度の接種率にとどまっています。個別通知の他、学校を通じたチラシ配布を行う等、定期的な接種勧奨を行なっています。

これまで、疾患のある対象者のみが町外接種を受けられるよう特例接種を実施していましたが、平成 29 年度より、町外のかかりつけ医での予防接種が行えるよう特例接種の範囲を拡大し、受けやすい体制を構築しています。

インフルエンザの流行時期に合わせて、「当別町内インフルエンザ等集団発生状況調査」として、町内医療機関でのインフルエンザ罹患者数の報告を集約、また、町内小・中学校におけるインフルエンザによる学級閉鎖情報を把握し、町内医療機関へ情報提供しています。

平成 26 年度に「当別町新型インフルエンザ等対策行動計画」を策定しています。国及び道が実施する「新型インフルエンザ等対策訓練」を受け、関係者間の連携強化のため、毎年情報伝達訓練を実施しています。

区 分		平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度	
乳 幼 児 期	BCG	48 人	98.0%	59 人	100%	58 人	95.1%	57 人	100%
	4 種混合	179 人	90.9%	235 人	89.0%	242 人	96.4%	222 人	88.4%
	MR I 期	59 人	98.3%	57 人	92.0%	62 人	89.9%	60 人	98.4%
	MR II 期	100 人	97.1%	101 人	92.7%	92 人	90.2%	66 人	91.7%
	ヒブ	238 人	90.2%	240 人	92.3%	242 人	96.4%	235 人	92.9%
	小児肺炎球菌	230 人	88.5%	237 人	91.6%	244 人	97.2%	233 人	92.5%
	水痘	-	-	117 人	30.0%	113 人	36.6%	125 人	70.6%
	*ポリオ(生)	-	-	-	-	-	-	-	-
	*ポリオ(不活化)	103 人	65.6%	70 人	79.5%	16 人	51.6%	9 人	36.0%
	*DPT	78 人	54.5%	30 人	55.6%	3 人	11.1%	1 人	7.7%
	日本脳炎 I 期	-	-	-	-	-	-	625 人	38.8%
	日本脳炎 II 期	-	-	-	-	-	-	29 人	5.2%
	B 型肝炎	-	-	-	-	-	-	83 人	74.8%
学童・ 思春 期	DT	119 人	74.4%	199 人	77.4%	116 人	52.0%	118 人	80.8%
	子宮頸がん	30 人	7.3%	1 人	0.2%	0 人	0.0%	0 人	0.0%
高 齢 期	インフルエンザ [*]	2,343 人	48.5%	2,406 人	47.4%	2,413 人	46.3%	2,398 人	46.2%
	高齢者肺炎球菌	-	-	438 人	38.6%	451 人	40.2%	561 人	45.1%

* 平成24年11月から4種混合が定期接種化。ポリオおよび DPT は未接種者のみが対象。

* 平成26年10月から水痘および高齢者肺炎球菌の定期接種化。

* 平成28年4月から日本脳炎の北海道での接種開始。(日本脳炎予防接種を実施する必要がないと認められる区域指定なし)

* 平成28年10月から B 型肝炎の定期接種化。

任意予防接種の位置づけである小児期インフルエンザ予防接種は、小児期インフルエンザ予防接種助成事業として平成 27 年度より接種費用の助成を実施しています。

区分		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
小児期インフルエンザ予防接種助成事業	対象者	-	-	1,602 人	1,441 人
	接種可能回数	-	-	2,797 回	2,490 回
	接種回数	-	-	1,209 回	995 回
	接種率	-	-	43.2%	40.0%

エキノコックス症検診は小学校3年生以上の町民を対象に検診を実施しています。平成26年度より、より受診しやすい体制をつくるため、これまで年1回の実施から、4回へ特定健診やがん検診と一緒に受けることができる日程へ変更しました。

区分	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
エキノコックス症検診	51 人	41 人	59 人	39 人

7 保健・医療体制の確保

《目標》

疾病予防と医療体制の確保を図る

1) 疾病予防のための保健体制の確保

健康寿命の延伸に向けて平成 28 年 12 月からは、北海道が行う北海道健康マイレージ事業に参加しています。健診を受けることや、健康づくりの取り組みを行うことでポイントがたまる制度で、協賛企業からの割引券や特定保健用食品等の特典が当たります。平成 28 年度は 277 人の方が参加し、健康に対する意識の向上につながっています。

平成 29 年 8 月に「健康寿命の延伸」をテーマに健康づくりセミナーを開催し、35 名の参加があり、健康で生活するための日常生活のポイントについて、講演と意見交換を実施しています。また 11 月には「上手な医療のかかり方」をテーマに、地域福祉町民セミナーを開催し 86 名の参加がありました。かかりつけ医を持つ大切さやどのように最期を過ごしたいか意志を持つこと、予防のポイント等を講演とワークショップで学びを深めています。

地域の健康づくりの推進するため、各町内会から 1 名ずつ保健推進員を推薦いただき、健康に関する学習を行う他、健康づくりにつながる活動の支援を行っています。

また、食生活改善協議会については、その活動支援を行うとともに、協働で食生活・栄養を切り口とした健康づくりを進めています。

区 分	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
当別町保健推進員 研修会議	4 回	4 回	4 回	3 回
当別町食生活改善 協議会再講習会	2 回	2 回	2 回	2 回

町民に広く身近な場所で健康づくりや福祉に関する情報を提供するために、「当別町健康福祉出前講座」を行っています。講座については、タイムリーなテーマを設定し高齢者クラブや町内会の集まりなどで多くの方の利用があります。

「健康福祉出前講座連絡調整会議」は、講師となる北海道医療大学教授や町内の事業所、町職員等の関係者が地域の健康課題や実態を共有する機会となっています。

区 分	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
健康福祉出前講座	127 回 3, 782 人	147 回 3, 884 人	119 回 2, 948 人	131 回 3, 256 人
健康福祉出前講座連絡 調整会議	2 回	2 回	2 回	1 回

2) 医療体制の確保

町内の救急医療当番医は内科系医療機関において平日夜間および土・日・祝日の日中に対応する体制で実施しています。

救急医療情報については「北海道救急医療・広域災害情報システム」、「小児救急電話相談」等の医療に関する情報や相談先を広報や子育てガイドブック等で周知しています。

区 分	平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度	
救急医療当番医(町内)	365 日	1,746 人	366 日	1,484 人	365 日	1,332 人	365 日	1,413 人
救急医療情報広報掲載	12 回		12 回		12 回		12 回	